「COVID-19」研究会

総合人文科学研究センター研究部門

「COVID-19 を経験した社会の人文学」

2026 年度第３回研究会

宅配が映し出す都市の食生活
–COVID-19 前後のラオス都市部における変化と持続–

日時：2026 年 12 月 22 日(火)　18 ： 00 ～ 19 ： 30

方法：Zoom によるオンライン開催

報告者：海老澤　圭

（早稲田大学文学学術院総合人文科学研究センター　招聘研究員）

COVID-19 の世界的流行は、人々の日常生活に大きな影響を及ぼし、食事をめぐる実践にもさまざまな変化をもたらした。一方で、食生活の変化それ自体は COVID-19 によって初めて生じたものではなく、それ以前から社会経済的状況や生活環境の変化とともに継続的に生じてきた。したがって、COVID-19 前後の食生活を検討する際には、この時期に生じた変化を、それ以前からの変化との連続性のなかで捉える必要がある。
本発表では、ラオス都市部における COVID-19 前後の食生活を、食事の宅配を手がかりとして検討する。ラオスにおける COVID-19 への社会的対応や宅配サービスの展開を整理するとともに、筆者が長期的に調査してきた都市生活者の食事実践を中心的な事例として取り上げる。その際、都市に住まう人々の経験から都市を捉えるという視点に立ち、宅配が日常的な食生活のなかにどのように取り入れられ、既存の食事実践といかなる関係を形成してきたのかを、具体的な生活実践に即して検討する。こうした検討を通じて、COVID-19 前後のラオス都市部における食生活の変化と持続の一側面を明らかにすることを目指す。

付記：この研究会は公開で行われますので、どなたにもご参加いただけます。研究部門にご所属でない方は、12 月 20 日(日)までに阿比留久美研究室に参加希望をメールでお伝えください。

連絡先：阿比留久美研究室（abiru93@waseda.jp）